

埋もれた裁判評決、偽旗マイダン虐殺を裏付ける

イワン・カチャノフスキ (Ivan Katchanovsk)

マンスリー・レビュー 2024年2月23日

[Buried trial verdict confirms false-flag Maidan massacre in Ukraine | MR Online](#)



2014年2月19日、マイダン革命中のウクライナ・キエフの独立広場を埋め尽くす数千人のデモ隊 (写真 Sergi MykhalchukFlickr | MR オンライン)

ウクライナのマイダン大虐殺裁判の約 100 万語に及ぶ判決 (陪審員による評決) によって、マイダン活動家の多くがウクライナのベルクト (内務省管轄の特別警察隊) やその他の法執行機関員によってではなく、極右が支配していたホテル・ウクライナやその他のマイダン支配地域にいた狙撃手によって撃たれたことが最近確認された。2023年10月18日に言い渡された評決は、このホ

テルがマイダン活動家によって支配されていたこと、武装した極右に連なるマイダン・グループがホテル内におり、そこから発砲したことを具体的に述べている。また、虐殺にロシアの関与はなく、当時のヴィクトル・ヤヌコヴィッチ大統領やその閣僚たちによる虐殺命令も出されていないことも確認されている。評決は、この虐殺が行われた当時、ユーロマイダン（親西欧派の市民運動）は平和的な抗議活動ではなく、ベルクトやその他の警察関係者の殺害を伴う「反乱」であったと結論づけている。

これは重要な公式見解である。なぜなら、この暴力事件は、それまでの独立ウクライナにおける大量殺人、暴力犯罪、人権侵害の中で最も重大な事件であったからだけでなく、その後の紛争を引き起こし、あるいはその一因となったからである。特に、この大虐殺はヤヌコビッチ大統領とその政府を暴力的に転覆させるきっかけとなった。その後、ロシアによるクリミア併合と内戦、ドンバス地方へのロシアの介入、そしてウクライナとロシア、ロシアと西側諸国間の抗争へと拡大し、ロシアは2022年2月24日、ウクライナへ不法侵攻して紛争を劇的にエスカレートした。しかし、ウクライナのメディアや、ごく一部の例外を除いて、西側の主要メディアでは、マイダンの狙撃犯を確認したこの評決が闇に葬られている。

さらに、新保守主義者のオンライン雑誌『The Bulwark』の論説では、著者のキャシー・ヤングがこの評決を誤って伝え、殺された48人のデモ参加者のうち40人の死についてベルクト警察の責任を認めたと虚偽の主張をした。ヤングはまた、マイダンのスナイパーの存在と極右によるマイダン虐殺への関与を否定し、公然とごまかした。評決、裁判、捜査、そしてこの出来事に関する学術的研究で明確で圧倒的な証拠があるにもかかわらず、それらに「陰謀論」のレッテルを貼った。このような意図的な省略と虚偽記述は、判決のウクライナ語テキストと関連する部分の自動英訳が公開され、それからの引用や説明がツイートされているにもかかわらず、行われている。

ウクライナのスヴィアトシン地方裁判所が下した判決は、ウクライナ検察総局（GPU）の捜査結果とともに、ウクライナの司法制度が独立しているとはいいいがたいものの、事実上、次のことを公式に認めたものである。つまり、2014年2月20日、殺害されたマイダン活動家48人のうち少なくとも10人、負傷者した172人のうち115人は、ベルクトやその他の法執行機関の職員が政府

支配地域から発砲したのではなく、マイダン支配地域で活動するマイダン狙撃兵によって狙撃されたことである。政府の調査も、1人の死者と77人の負傷者は、ベルクトの支配地域から撃たれたのではないことを認めている。当然のことながら、これらの活動家が政府関係者に撃たれたのでないとするれば、マイダンの狙撃手に撃たれたに違いない。

ユーロマイダン（事件）10周年の直前にキエフの裁判所が下したこの判決は、政府や主要メディア、西側諸国やウクライナのさまざまな情報戦士たちによって広められてきたマイダン虐殺説が誤りであることを示している。この物語を主張する人たちは、マイダンを平和的抗議活動と呼び、マイダンのデモ参加者の虐殺を、ヤヌコビッチ政権の命令で政府の狙撃兵が行った犯罪として紹介してきた。検察側、被害者側の弁護士、ニューヨーク・タイムズやその他の主流メディア（いくつかの顕著な例外を除く）、ウィキペディア、自称専門家、情報戦士たちは、ホテル・ウクライナやその他のマイダン支配下の建物にいた狙撃手たちの存在、彼らによるマイダン抗議参加者の射殺、そしてこの大量殺戮における極右の関与を否定し、代わりにこのような考えは "陰謀論" や "ロシアの偽情報" であると主張した。例外として、ARD、BBC、The Nation、Jacobin、Court House News、Ekathimerini（ギリシャ）、Jyllands-Posten（デンマーク）、Weltwoche（スイス）、Il Fatto Quotidiano（イタリア）、El Nacional（スペイン）の報道がある。さらに Canadian Dimension は、この件に関する私の他の文章の一部を掲載している。

ホテル・ウクライナ内の狙撃手による活動家虐殺とジャーナリストの射殺

判決は、このホテルからの銃撃に関する19の公判証言、このなかには「『ウクライナ・ホテル』地域から（の射撃で）」負傷したと供述した被害者の証言、および死者1名と負傷者1名のデモ参加者の「ホテル側からの銃創に関する客観的データ」が含まれるが、それにもとずいても「2014年2月20日の朝、発砲された武器を持った人物がホテル・ウクライナの敷地内にいたという断定的な結論」を下すのに十分である、とのべている。判決は、「法執行官」ではない「未知の人物」によってマイダンのデモ参加者9人が殺害され、23人が負傷したこと、これらの殺傷にベルクト警察（うち5人が起訴された）が

関与したことを示す証拠は存在しないことを明記している。判決ではまた、ホテル・ウクライナやその他のマイダン支配地域からの発砲で、少なくとも6人のデモ参加者が殺害され、その他多数が負傷したこと、そしてこの地域は "当時、法執行機関が支配していなかった地域" であったことを明示している。



判決は、BBCのテレビクルーが、「活動家支配下」のホテル・ウクライナからマイダン活動家のスナイパーに狙撃されたことを裏付けている（Video C/YouTubeから）。

つまり、犠牲者はマイダンが支配する場所から狙撃されたのであり、ウクライナでの存在が調査・追跡されたロシアの諜報員は虐殺に「一切関与していない」と明記した既存の学術研究と政府調査の結果を裏付ける判決になっているのである。判決の中で、裁判官と陪審員は、デモ隊虐殺の間、ホテル・ウクライナは「活動家たちによって支配されていた」こと、ホテルにいたマイダン活動家たちは猟銃とカラシニコフ型攻撃用ライフルで武装していたこと、これらの活動家たちはホテルから特にBBCテレビクルーを狙って発砲したこと、少なくとも3人のマイダン活動家たちがホテルから発砲された銃弾によって故意に殺されたことを明言した。

極右活動家のウクライナ元国会議員が、「カラシニコフ攻撃用ライフルと猟銃」のような銃器を持った活動家たちに「"道を譲って"いるところを、ホテ

ル・ウクライナにいたフランスのTVクルーに撮影されていた。これも判決で確認された。極右政党スヴォボダの声明は、ホテル・ウクライナを掌握したと述べている。また虐殺の前後、ホテルを警備していたマイダン・グループの代表によるビデオや証言、ホテル・スタッフの証言は、この極右グループがホテルを支配し、防衛していたことを示している。親マイダン派のウクライナ人グループであるスピルノ TV によるビデオと裁判での証言は、マイダンに連なる極右グループがホテルの上層階におり、デモ隊を銃撃していたことを示している。

判決文によると、BBC のビデオには、「ウクライナ・ホテルの建物側から BBC 記者のカメラクルーへの砲撃（一発の銃声が聞こえる）……そしてウクライナ・ホテルの敷地内で、活動家が（ピストル型の）銃器を持っている様子が記録されている」とある。裁判官と陪審員による決定は、このビデオを「"キエフのウクライナ・ホテルの活動家が支配する建物から、その外見的特徴から明らかに銃器、狩猟用武器とみられるものを、活動家が狙いを定めて使用していることを示す資料として「評価」した。ウクライナ政府の調査により、極右政党スヴォボダの代議士が、BBC クルーが銃撃されたホテル・ウクライナの部屋に住んでいたことが明らかになった。ICTV は、同じホテルの部屋でマイダンのデモ隊を背後から狙撃するスナイパーを、虐殺現場から撮影していた。あるマイダン活動家は裁判で、この銃撃の後、抗議者たちが「これらは我々の狙撃手だ」と言ったと証言した。

判決によると、ホテル・ウクライナから発砲された銃弾がマイダン活動家グループの背後の木に命中し、2人の活動家が死亡、1人が負傷した。ベルギーのテレビ局が編集したこの虐殺のビデオと、2人のマイダン活動家が殺害される現場に誘い込まれた様子は、西側諸国とウクライナの主要テレビ局によって、政府の狙撃兵またはベルクト警察による虐殺として紹介された。

判決では、「件の活動家グループにいた被害者が ホテルから背中を負傷した」"こと、同じグループの別の被害者が、ウクライナ・ホテルの上層階から致命傷を負ったことを、自身で証言したと記している。さらに、「この裁判の範囲内では、被害者、さらには被告人のこのような傷害に対する法執行官の関与に関するデータは立証されていない」とし、「銃創は、ウクライナ・ホテルの方向から、つまり当時法執行機関が管理していなかった領域から、人物

1852号（ヴォロディミル・ジェレブニという男）に加えられた」と明記している。

判決文にあるように、この発砲は群衆を狙ったものであった。

また、「人物 1770号（オレ・ウシュネビッチ）が胸部と腹部にうけた致命的な銃創は、ホテル『INFORMATION_161』 [ホテル・ウクライナ] の側とその前の地域から受けたものであり、これらの地域は法執行機関の管理下になく、したがって、被害者の死を招いた被告人と RSP [ベルクト特殊会社] の戦闘員の関与は除外される」（判決では、奇妙なことに、ウシュネビッチはベルクト将校に足を負傷させられたとも主張されたため、ベルクトや他の政府軍による関与の証拠がないデモ参加者の殺害リストにウシュネビッチは含まれなかった）。



判決では、ホテル・ウクライナからツェレブニ近くの地面にいたヴォロディミル・ツェレブニの殺害とヴォロディミル・ヴェンチャクの負傷が確認された。Video C/YouTube からのスクリーンショット。

デモ隊と警官の虐殺、狙撃手によるドイツ人記者への銃撃はマイダン支配地域から

判決はまた、2月20日のマイダンの大虐殺が、ベルクトと治安部隊（後者はウクライナ内務省管轄の制服警官隊）3人の殺害と39人の負傷から始まったことを確認した。この判決では、これらの警官を狙撃した者たちを「未知の人物」としているが、裁判長はウクライナのメディアとのインタビューで、この判決が極右に連なるマイダン狙撃グループのメンバーを指していることを認めた。また、狙撃犯の数人は、ウクライナのメディアのインタビューで、音楽院の建物から警察官を射殺したことを認めている。

評決では、マイダンが支配する場所から少なくとも3人の他のマイダン活動家が殺害された証拠があると明記されているが、ベルクトや他の法執行機関の関与は否定されているか、証明されていない。また、ウクライナの極右組織である「右派セクター」につながるマイダン狙撃グループの本部であり、スヴォボダの活動家も含まれていた音楽院の活動家1人が殺害された証拠を挙げている。裁判の判決では、音楽院はその後、この極右グループの司令官をリーダーとするマイダンの「活動家」たちによって占拠され、彼はマイダンの事件後、ウクライナの国会議員となったことが確認されている。判決文はまた、音楽院と隣接する中央郵便局から、ホテル・ウクライナの2つの部屋が銃撃されたことを示しているが、これらの部屋にはドイツのARDテレビのジャーナリストが住んでいたこと、中央郵便局は当時、右翼セクターの本部として機能していたことを省略している。

判決はまた、イホル・コステンコが殺されたのはベルクトでも他の法執行機関でもなく、マイダンが支配する場所からであったという証拠を挙げている。判決では、コステンコが

「致命傷を負う数秒前、他の傍観者たちとともに、ホテル・ウクライナの窓を注視していた・・・そして、この注意は、起こりうる危険の原因を共同で観察することによって結ばれ、コステンコが負傷してアスファルトの上に横たわっていたときでも、すべての観察者の側で止まることはなかった」。

コステンコはマイダンの活動家であると同時に、ウィキペディアの筆者であり編集者でもあった。ウィキペディアは、彼がマイダン支配地域からの狙撃によって殺されたことを意図的に省略している。偽旗マイダンの大虐殺を意図的かつ文字通り誤魔化し、白日の下にさらした同じウィキペディア編集者が、ウク

ライナの極右とそのホロコーストへの関与についても組織的に誤魔化し、白日の下にさらしたことは偶然ではない。これらの筆者のなかには、プロフォシユカとして知られる「ワイズ2」がいて、彼は「科学的反ユダヤ主義」を喧伝し、ナチスによるウクライナ占領下の1941年のリヴィウでおきたポグロムにウクライナ民族主義者組織（OUN）が関与したことをごまかし、「ユダヤ人の協力」を根拠に正当化した。

My Very Best Wishes というハンドルネームを使う別のウィキペディア編集者は、カナダにあるガリシア師団とロマン・シュケヴィチの記念碑が、実際にはヴァッフエン SS の師団とナチスの協力者を記念するものであるという事実を、図々しくも胡麻化した。オタワ大学の著名な歴史家による学術論文も、My Very Best Wishes を、ウィキペディアのポーランドにおけるホロコーストの歴史の意図的な歪曲に関与した編集者の一人として挙げている。この編集者はまた最近、ウィキペディアのイーロン・マスクの経歴ページに、イーロン・マスクが「ロシアのウクライナ侵攻に関与した」とされることについて虚偽の書き込みをした。様々な出版物やウェブサイトは、「ワイズ2/プロフォシユカ」を極右スヴォボダの活動家スバトスラフ・グット（Svyatoslav Gut）であるとし、My Very Best Wishes をミシガン大学の生物物理学研究者アンドレイ・ロマイズ（Andrei Lomize）だとしている。



キエフのマイダン虐殺で死亡したデモ参加者の追悼碑。(写真：ウィキメディア・コモンズ)

判決はまた、最初に殺害された3人の活動家が狩猟用のペレットで撃たれたことを確認している。少なくとも1人の活動家は、マイダンが支配する地域から、マイダンの狙撃手の1人が猟銃を使って撃ったことが明記されている。

ベルクト関与の証拠はねつ造、ヤヌコビッチによる虐殺命令なし

裁判の評決はまた、ヤヌコビッチ政権によるマイダン抗議者の虐殺命令には証拠がないことを確認した。これは決定的な承認だ。ヤヌコビッチ政権は、虐殺を命じたという非難に基づいて打倒されたのだから。ジョー・バイデン米副大統領（当時）は回顧録の中で、マイダンの大虐殺の最中、ヤヌコビッチに電話をかけ、「もう終わった。治安部隊を引き上げさせろ。すでにウクライナ国民の信頼を失っている。国民を殺し続ければ、歴史から厳しい審判を受けるだろう」といったとしている。

マイダンの活動家たちを殺傷したベルクト警官2人を無罪としたことに加え、判決は、被告とされたベルクト警官5人全員が、マイダンのデモ参加者13人を殺害し、さらに29人を負傷させたとして非難を浴びせられていたことは根拠がないとしている。これは、政治的動機によるでっち上げのさらなる証拠である。

2019年の交換でゼレンスキーがドンバス分離派に移送したベルクト将校3人を欠席裁判で有罪にするという決定は、政治的なものだった。マイダンのデモ参加者48人のうち31人が殺害され、さらに80人のうち44人に殺害未遂とされた事件で、これらの将校はたった一つのねつ造された法医学的検査に基づいて集団的責任という概念を前提として起訴された。この1回の銃弾の法医学的検査は大虐殺の5年後に行われ、それ以前に行われた約40の銃弾の法医学的検査の結果を覆した。最近のマイダン虐殺裁判の判決では、有罪判決を受けたベルクト幹部と殺害されたデモ参加者を結びつけるとされた、不正な法医学的検査による1発の弾丸の一致は、同じ弾丸の対応する破片の痕跡がないまま

現場に現れた弾丸の破片に基づくものであり、証拠改ざんの兆候であるとして棄却されたのである。にもかかわらず、このような法医学的「証拠」に基づいて、ベルクト警官を有罪にする決定が下された。

ベルクト警官 3 人は、このたった一度のでっち上げの法医学的検査に基づき、31 人の殺害と 44 人の殺害未遂について集団的責任を推定され、欠席裁判で有罪判決を受けた。同じ根拠で、他のすべての証拠に反して、ベルクト司令官 1 人がもデモ参加者 4 人を殺害し、8 人を負傷させた罪で有罪判決を受けた。ベルクト将校 1 人が死亡し 1 人が負傷した後、ベルクト中隊による内部部隊の避難と撤退の際に、おそらく部下にであ無差別発砲を命じたとされる理由である。この際の判決は、弾丸と銃弾が一致しない場合でも、これらの抗議者が同じ集団で、ほぼ同じ時間、同じ場所で殺害されたという理由だけで、ベルクトまたは身元不明の警察官によるものとしている。これは、警官を有罪にした裁判の評決が、デモ参加者の同じグループの人々が、ほぼ同じ時間と場所で、法執行機関ではなく、ホテル・ウクライナや他のマイダン支配下の建物や地域にいた「正体不明の人物」によって殺傷されたことを認めているにもかかわらず、行われた。

捏造された法医学的弾丸検査は、ベルクト警官がマイダン活動家のほぼ全員が殺された特定の時間に発砲していなかったことを明確に示す同期ビデオとも矛盾する。また、マイダン支配地域から発射された銃弾の弾道を指摘する政府の弾道学専門家による現場調査や、被害者の傷を上面、背面、側面から見た銃弾の弾道を追跡する法医学的検査の結果、負傷したマイダン抗議者の大多数や、ホテル・ウクライナやその他のマイダン支配地域での狙撃に関する数百人の検察側証人や弁護側証人などの証言とも矛盾する。これらの証拠はすべて、ベルクト警官がこれらの抗議者を物理的に撃つことができなかったことを明確に示している。実際、これらのベルクト警官たちは、デモ参加者が殺された特定の時刻にも、特定の方向にも銃撃していない。弾痕の位置と傷の軌跡から、抗議者たちが撃たれたのは、抗議者たちの正面にあるベルクトのバリケードの位置と一致するような低い角度ではなく、マイダン支配地域の建物や他の建物に対応するような急な角度で、横や後方から撃たれたことがわかったのである。

この法医学的検査で唯一一致した弾丸は、負傷したマイダン活動家の遺体から採取されたもので、有罪判決を受けたベルクト警官のカラシニコフと結びつい

たものである。政府の法医学専門家は、ホテル・ウクライナの狙撃兵から身を守るために使っていた椅子の弾痕の位置と、傷の軌跡の急角度から、この抗議者はホテルの屋上から撃たれたと断定した。同期ビデオによると、彼が歩道橋で負傷したまさにその時、橋の下に隠れていた抗議者たちは、ホテル・ウクライナの狙撃兵が橋の上の抗議者たちに発砲するのを指差していた。



ベルクト将校の有罪判決が、同将校の AKM ライフルとデモ参加者を襲った銃弾との不正な鑑識結果に基づいていたことを示す証拠。Video D/YouTube のスクリーンショット。

ベルクト将校が発砲していた時間と、特定の抗議者が殺害された時間の違いは、検察総局（GPU）が資金提供した匿名グループによって、虐殺を組織したと告発されたマイダン政治家の宣伝機関の関与のもとで制作された映像のシンクロや、ニューヨークを拠点とする研究グループ SITU が制作したモデルに基づいて作業するカーネギーメロン大学の研究者たちによっても確認されている。しかし裁判では、ベルクトの警官が発砲した時間とデモ参加者が殺害された時間がシンクロしたこれらの映像は、別々に、あるいは見分けが付きにくい 12 の映像の組み合わせとして 1 つのスクリーンに映し出されたため、これらの出来事が異なる時間に起こったという事実が不明瞭になった。ベルクト将校による発砲とデモ参加者の殺害が重なったいくつかのケースでは、その瞬間は他の発砲音、つまりマイダンの狙撃手による発砲音とも重なっていた。しかし、ベルクト将校の裁判の評決は、虐殺の組織者とつながりのある匿名のグル

ープによって作成された、意図的に誤解を招くようなこの編集を、ベルクト将校が有罪であることの証拠として用いた。

最近のマイダン裁判の評決でも、結局、マイダンの弁護団は、SITUの3Dモデルを提示するとして法廷と陪審員の時間を浪費した挙句、結局それを提示しなかったことが明らかになっている。このことは、このモデルが信頼性に欠けるものであり、被害者の傷の位置がマイダン支配下の建物からの銃撃の方向と一致しているにもかかわらず、代わりにベルクトの地上の位置と一致するように変更されているという、原始的な詐欺に基づくものであったという事実を改めて裏付けるものである。このSITUモデルは、マイダン弁護団の命令でニューヨークの建築研究グループが裁判のために10万ドル近くかけて作成したもので、ニューヨーク・タイムズ紙をはじめとする欧米やウクライナのメディアに掲載された記事で偽情報を広めるために使われた。この3Dモデルは、マイダンの弁護士たちの給与や検察官の視察費と同様に、億万長者ジョージ・ソロスのウクライナにおけるオープン・ソサエティ財団によって支払われた。

マイダンの活動家の大多数が政府軍によって殺傷されたのではないと公式に認めたことは、それ自体が、撃たれた抗議者の大多数がマイダンの狙撃手によって殺傷されたことを示唆する証拠である。殺害された人々は証言できないのだから、これらの殺害をベルクトのせいにするのは簡単だ。しかし、負傷者のうち圧倒的多数は、マイダン支配下の建物や地域で活動するスナイパーを目撃した、あるいはスナイパーに撃たれたと証言している。

この判決は、歴史上最も文書化された大量殺戮事件のひとつであるこの重要な大虐殺から10年が経過したが、マイダン活動家や警察官の殺人や殺人未遂、あるいは外国人ジャーナリストへの銃撃の罪で刑務所に収監された者は誰もいないということを意味する。マイダン虐殺を否定し、その主張を「陰謀論」と呼び、それによって極右の大量殺人者を免罪する人々の沈黙は、耳をつんざくものであり、また明らかにするものでもある。

メディアの隠蔽とごまかし

ウクライナのメディアの報道はすべて、偽旗の虐殺を裏付けるこの判決をわざと省いている。欧米のメディアも（少数の顕著な例外を除いて）この情報を省

略している。さらに、前出の作家キャシー・ヤングは、裁判の評決を意図的に誤報し、ホテル・ウクライナで活動するマイダン狙撃手に関する暴露を「陰謀論」と決めつけ、評決はマイダン抗議者がホテルや他のマイダン支配地から狙撃されたことを示すものではなく、ロシアの狙撃手の関与を否定するものでもないという虚偽の主張をしている。ヤングはさらに、ホテル・ウクライナはマイダンの活動家たちによって管理されていなかったと虚偽の主張をし、代わりにホテルの警察がデモ隊を撃った可能性があるという実際の陰謀説を宣伝している。これらの点に関する彼女の主張は、判決だけでなく、虐殺の前にホテルを掌握したという極右政党スヴォボダの声明、ホテルからマイダンのスナイパーがデモ隊やBBCのクルーに発砲している映像、ホテルのスタッフやホテルの警備を担当していたマイダン部隊の指揮官の証言、学術出版物に掲載されたその他の証拠にも反している。

ウクライナの権力を掌握するためにこの偽装大量殺人に関与したネオナチを含むオリガルヒや極右の指導者や組織は、欧米やウクライナの政治家、メディア、さらには多くの学者たちから英雄や民主主義の擁護者として歓迎された。彼らは政府訪問やカナダを含む大学での講演に招かれた。マイダンのスナイパーとその偽旗による虐殺の報告を陰謀論とプロパガンダだと決めつけた政府指導者、ジャーナリスト、調査官、マイダンの弁護士、NGO活動家、党派的研究者、情報戦士たちは、正義と人権の擁護者として歓迎され、欧米の政府、財団、大学から助成金を与えられ、ノーベル平和賞まで受賞した。

上記のどの政党も、このような詐欺行為と大量殺人者、特に極右の免罪によって、何らかの結果に苦しむことはないだろう。だがウクライナとウクライナ人は、この大虐殺の結果に苦しみ続けている。この大虐殺は、現在進行中の壊滅的なロシア・ウクライナ戦争を含む大きな紛争へと飛び火しており、この戦争は西側諸国がロシアに対して行っている危険で勝ち目のない代理戦争でもある。

(了)

筆者はオタワ大学政治学部で教鞭をとる。著書に『Cleft Countries』：著書に『Cleft Countries: Regional Political Divisions and Cultures in Post-Soviet Ukraine and Moldova』、共著に『Historical Dictionary of Ukraine』

(Second Edition)』、『The Paradox of American Unionism Why Americans Like Unions More than Canadians Do, But Join Much Less.』がある：

原文はカナディアン・ディメンション 2024年2月20日号。 by (more by Canadian Dimension) | (カナディアン・ディメンションより)

【機械翻訳チェック 田中靖宏】